

まほろば



2018.4
第200号

新年度を迎えて



今年の雪は溶けるのが早く、いつの間にか正面玄関前の中庭の大きな雪がなくなりました。新年度を迎えて一言ご挨拶申し上げます。

さて、当院では4月2日に新しく赴任した職員への辞令交付が行われました。本年度はいつになく職員の異動が多く、76名が新たに当院での仕事を開始しています。特にこの春国家試験を合格した医師（初期研修医）8名・薬剤師1名・助産師4名・看護師19名が、最初の職場（研修の場）

として当院を選んでくれました。その他に、以前この欄で紹介したスチューデントドクター（弘前大学医学部6年生）7名が4月から臨床実習を始めています。このように、新年度にふさわしく多くの若いスタッフを迎えたことに、私はじめ職員一同が心より歓迎うれしく思っています。

一方で初めて職場に出るスタッフも多く、慣れるまでいろいろ至らないところもあると思います。患者さんの目から見て頭をかしげることが多々あるかもしれませんが、当院の使命の一つであります、医療スタッフの教育・研修という点をご理解いただきご協力いただければ幸いです。

以前にもこの欄で説明いたしましたが、当院で担当する二次救急輪番が増加したことで、外来患者数が増加しています。効率化のために外来診療室の配置換えなどを行いましたがまだ十分ではありません。曜日によってはまだ混雑は解消されていないようです。

又、救急患者受け入れに関しての大きな問題は、『地域連携室便り』でも触れましたが、当院には常勤医を置く救急センター（救急科）が設置されていないということです。休日及び夜間の二次輪番制がしかれている時間帯は、一般外来が行われていないため、人員・スペースが確保されなんとか救急患者受け入れができています。しかし、通常の業務が行われている時間帯に、二次救急患者の受け入れに支障を来している事例が散見されています。新中核病院構想が早く整備され、患者さんのスムーズな受け入れが可能な体制を作れることを望んでいます。

リスクマネジメントフォーラム

3月12日に平成29年度のリスクマネジメントフォーラムが開催されました。メインテーマは「危険を予知して安全な環境づくり」。院内各部署で事前に行っていたいただいたKYTから環境づくりに関係するものを選び、母子医療センター、5階病棟、薬剤部、放射線科に発表していただきました。

どの部署も普段の日常の写真を使い、そこに潜む危険に取り組んでいました。「日常の当たり前」に慣れずに疑問を持つという姿勢が印象的でした。対策としては、すぐにできることから始めること

の大切さや、患者さんの声も反映させて対策の幅を広げることなどが提案されました。問題点や対策を考える際、プロジェクターなどで全員が同じものを見て意見を出しやすくするという工夫もありました。

最後に、業務のお忙しい中参加していただきありがとうございました。皆様にとって、医療安全に関する「アンテナを張って自分の感性を高める」よい機会になったのであれば幸いに存じます。

麻酔科医長：吉田 仁



臨床工学技士の仕事について

臨床工学技士は、臨床工学技士法に基づく国家資格で、医師の指示の下に、生命維持管理装置（人工呼吸器、人工心肺装置、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器）の操作及び保守点検を行うことを業とする専門医療職種です。

弘前病院では1名配置され、生命維持管理装置（人工呼吸器、除細動装置、閉鎖式保育器）の保守点検と、院内で共用可能なシリンジポンプ、輸液ポンプなどの一元管理を行っています（写真-1）。また、以下の業務にも対応させていただいております。

- ・ 白内障手術での超音波手術装置の操作
- ・ ペースメーカー植え込み手術でのプログラマー操作、ペースメーカーチェック
- ・ 顆粒球吸着療法（写真-2）、持続血液透析濾過
- ・ 腹水濾過濃縮再静注法（写真-3）
- ・ 一酸化窒素供給システムのセッティングと、定期的なガス校正
- ・ 脳低温装置のセッティングと、定期的な循環水の交換
- ・ 麻酔器と血液ガス分析装置の保守管理
- ・ 電気設備や医療ガス設備の点検時における立ち合い
- ・ その他

引き続き、安全に業務を遂行できるよう努めてまいります。



写真-1



写真-2



写真-3

新採用者オリエンテーションを終えて ～将来を担う若い仲間達を迎えて～

長い長い弘前の冬が過ぎ、雪解けが一気に進むと共に暖かな春の陽気に包まれ、49名の新しい病院職員を迎えました。新採用者オリエンテーションは、当院の様々な職種のニューフェイスが一同に会し、実施されました。病院概要から始まり、医療安全、感染管理、更に地域医療連携体制に関する多くの事について学びました。

看護部では27名の新採用者を迎えました。そのうち20名の新卒新人は、採血や注射、点滴などの基礎看護技術の演習を、できるだけ実践に近い形

で行いました。新人は、「学校で学んできたことを振り返り、早く一人前になって看護がしたい」、「学生気分ではなく、自分たちは看護師としての責任を持ち、気を引き締めて患者さんに援助したい」と、医療の専門職として一歩、歩み始めた責任と期待に、目を輝かせながら臨んでいました。

将来の医療現場を牽引していくであろう若い仲間の熱いパワーを大切に、目指す姿に成長できるよう、支援していきたいと思います。

教育担当看護師長：白取 彩香

確実な採血で患者様への負担を最小限に！



初めての点滴の滴下調整



フレッシュな新人と熱い指導者は一致団結して患者様へ安全で安心な看護を提供します

新採用研修医の紹介

今回新たな基幹型施設として6名と大学関連施設として2名の合わせて8名の新たな研修医を迎えることとなりました。2年次の7名と合わせて15名もの初期研修医が集うこととなります。後期研修プログラムを当院で行っている先生も含め、この地域において、久々に世代間のギャップが解消されつつある大変喜ばしい状況となりました。

ます。当院においても教育研修の場として、新たな8名の研修医とともに、指導医も含め互いに切磋琢磨し、全員一丸となってよりよい医療を提供できるよう努力していければと思っております。この流れが永続的に続きますよう、皆様方のご理解・ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

臨床研究部長：石黒 陽

現在のこの地域において当院は、研修教育施設として大学と連携しつつも、専門的であるよりは、より総合的・全人的な医療、より地域に密着した形での医療を行くことが求められております。後期研修医制度が専門性の高い研修であるのに対して、それ以前の卒後2年間は初期研修医制度であり、初期対応、救急医療の研鑽を積むことが指針として示されてい



オリエンテーションの様子

外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (2018年4月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本秀樹	横田貴志	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹
呼吸器科		中川英之	山本勝丸	中川英之	山本勝丸	中川英之
		山本勝丸	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子
		下山亜矢子	田中佳人	田中佳人	—	田中佳人
		—	石岡佳子	—	—	—
消化器・血液内科		松木明彦	相原智之	相原智之	松木明彦	相原智之
		山口公平	山口公平	松木明彦	山口公平	山口公平
		佐藤年信	千葉裕樹	佐藤年信	安田耕平	佐藤年信
		石黒陽	石黒陽	千葉裕樹	石黒陽	石黒陽
小児科		杉本和彦	佐藤工	敦賀和志	佐藤工	杉本和彦
		敦賀和志	梅津英典	佐藤啓	梅津英典	佐藤啓
		遅野井香純	—	—	—	遅野井香純
		—	—	—	—	—
外科		柴田滋	山名大輔	柴田滋	山名大輔	三上勝也
乳腺外科		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅
整形外科	午前	佐々木規博	秋元博之	秋元博之	藤田有紀 受付10時まで	秋元博之
		飯尾浩平	飯尾浩平	佐々木規博		佐々木規博
		藤田有紀	太田聖也	藤田有紀		飯尾浩平
脳神経外科		—	—	木村正英	—	—
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	● 予約	● 手術/検査	● 予約	● 手術/検査	● 予約
泌尿器科	午前	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		飯野香理	丹藤伴江	丹藤伴江	● 妊婦健診 (一般外来休診)	飯野香理
		松村由紀子	小玉都萌	松村由紀子		石原佳奈
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		西澤尚徳	西澤尚徳	休診	西澤尚徳	西澤尚徳
		後藤真一	山内一崇	—	—	—
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	—	—	川口英夫 (午後)	—	川口英夫 (午後)
女性専用外来		杉本 菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		—	—	—	今 充	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

献立を 見て楽しみ めし時間

(カマタ)

絶食が あけたプリン の ああうまさ

(ヒゲ男)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘 毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL 0172-32-4311
FAX 0172-33-8614
URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>